



優秀賞

名寄市



参加認定証交付式の様子

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体

名寄市立大学援農ボランティアの会

【名寄市】

名寄ならではの環境で農作業+αの経験・体験を

【はじまりは？】

名寄市の農業は、もち米、アスパラ、スイートコーンなど、全国でも有数の生産量を誇る作物が多くありますが、近年は農業従事者の高齢化やパート作業員の不足が進み、特産物の生産を維持することが難しくなっています。また、名寄市には保健医療福祉の専門職を養成する名寄市立大学がありますが、農業との接点は少なく、学生に向けて農業アルバイトを募集しても応募が無いような関係性でした。

そこで単なる農業アルバイトではなく、学生と農業のつながりを作り出せるような取組が必要だと感じ、大学や農協、市の担当者が集まって話し合いを重ね、その結果、食農教育という学びも含めた援農ボランティア活動とすれば、お互いにとって有益な関係性を作ることができるのではないかと考え、協力して組織(環境)作りを行うことになりました。

【おもな活動】

学生が援農有償ボランティアとして農作業に従事するための環境作りが主な活動です。

学生が普段行っているアルバイトと農業アルバイトはかなり環境が異なるため、その差を埋めるための工夫を行っています。例えば、作業に必要な道具(長靴や雨具など)の貸出や参加条件の統一(有償水準や休憩、送迎など)です。

そのほか、学生の募集は名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター、農家の募集はJA道北なよろ、貸出品の資金拠出は名寄市とJA道北なよろが担当するなど、各団体が分担して活動を行っています。



収穫作業の様子

【ここが自慢】

農業アルバイトは主にお金を通じた関係となり、農家にとっては不慣れな学生を高め賃金で雇うことになり、学生にとってはそこそこの賃金で大変な外作業を行うこととなります。逆に無償ボランティアは心の報酬だけとなり、農家は繁忙期に多くのコミュニケーションを取る必要があり、受入農家も参加する学生も限られます。

そこで本活動では、「有償」援農ボランティアとすることで、双方のバランスを取っています。

農家は賃金に加えて食農教育の機会(経験や交流)を提供することで、学生は賃金以上の報酬を得ることができるため、参加者も安定して確保できています。

現在では毎年20戸以上の農家に延べ人数で70名以上の学生が参加しているほか、事業終了後に農業アルバイトとして直接雇用されている学生も多数いることから、学生と農家の相互理解が進展しています。

卒業後は名寄市外へ就職する学生が多いため、将来、名寄の農業・北海道の農業・日本の農業の良き理解者・支援者となってくれることを期待しています。

連絡先

代表者名 : 今野 聖士さん / 設立 : 2017年 / 会員 : 60名

住所 : 北海道名寄市西四条北8丁目1
名寄市立大学 教養教育部 今野研究室

電話番号 : 01654-2-4194

F A X : 01654-3-3354

E-mail : m-konno@nayoro.ac.jp

U R L :